

シラバス参照

科目名	地域と産業 I
配当年次	1年次
開講期間	前期
単位数	2
担当教員	石井 龍太(イシイ リョウタ)
期間・曜日・時限・教室	前期 水曜日 2時限 17-202

※	
授業の目的・目標	<p>【授業の概要】:この講義では様々なテーマを取り上げ、地域の個性を持ちながら、日本と世界に通じる「産業」について、歴史、社会的影響など様々な側面から取り上げる。また地域から周辺へ、世界へと展開した部分についても積極的に扱う。</p> <p>【授業の目的】:講義を通じ、世界各地で展開する様々な地域産業について、特に共通性と個性を理解できるようになることを目的とする。</p> <p>【習得できる力】: ①.知識 ⑤.論理的思考力 ⑥.問題解決力 ⑩.生涯学習力</p> <p>【授業の到達目標】: 様々なテーマの中で周辺地域と比較しながら検証していく手法を採り、地域の産業と地域の個性を世界の中に位置づけ、幅広い教養と、地域社会や国際社会で活躍するための基礎的能力を習得することを全体の到達目標とする。</p> <p>【実務経験と授業内容との関連】:なし</p>
準備学習等の指示	<p>この授業は1回の授業につき3時間の準備学習が必要です。</p> <p>課題の提出は,Teams, WebClass等のLMSを用います。</p>
講義スケジュール	<p>■1回目 【テーマ】 「地域」とは? 「産業」とは? ① 【到達目標】 本講義のキーワードである「地域」と「産業」の意味について考え、理解することを目標とする。 【準備学習】 複数の辞書を当たり、「地域」「産業」について検索し自分なりの理解を身に付けておくこと。</p> <p>■2回目 【テーマ】 観賞植物と世界 日本園芸産業史 【到達目標】 植物を鑑賞するという人間だけの行為に焦点を当て、特に日本産業史において観賞用植物がどのような役割を果たしてきたのかを通史的に理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■3回目 【テーマ】 観賞植物と世界 西洋園芸産業史 【到達目標】 前回の講義を踏まえた上で、西洋社会における園芸史について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■4回目 【テーマ】 観賞植物と世界 東西園芸交流史 【到達目標】 前回、前々回の講義を踏まえた上で、更に東西世界の園芸交流史とそれが果たした社会的意味について深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■5回目 【テーマ】 捕鯨 日本捕鯨史 【到達目標】 日本列島で展開した捕鯨産業の歴史的展開について、クジラに対する眼差しの変化と合わせて深く理解することを目標とする。 【準備学習】 提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■6回目 【テーマ】 捕鯨 欧米捕鯨史 【到達目標】 欧米諸国の中で展開した捕鯨産業の歴史的展開について、前回の日本の事例と比較しつつ深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■7回目 【テーマ】 近現代捕鯨史 【到達目標】 日本、欧米の近代期の捕鯨産業の展開、今日の現状について深く理解することを目標とする。特に捕鯨に対する自分なりの見解を獲得することまで含めて目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■8回目 【テーマ】 ウナギ 最新研究にみる生態 【到達目標】 よく知られた食材であるウナギの知られざる生態について、最新研究を踏まえつつ深く理解することを目標とする。 【準備学習】 提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■9回目 【テーマ】 ウナギ 日本人と鰻食産業 【到達目標】 鰻と日本人の深いかわりについて、歴史的展開を踏まえながら深く理解することを目標とする。 【準備学習】 前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p>

	<p>■10回目 【テーマ】ウナギ 養鰻業と鰻食産業の現在 【到達目標】ウナギを巡る危機的現状とその背景、養鰻業の今日までの展開について深く理解することを目標とする。 【準備学習】前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■11回目 【テーマ】糸満漁民 糸満の社会構造 【到達目標】沖縄県南部に位置する数少ない漁港地である糸満(イチュマン)の歴史と現在について、特に男女が経済的に分離した特異な経営形態を含めて深く理解することを目標とする。 【準備学習】提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■12回目 【テーマ】糸満漁民 糸満の文化と漁業産業 【到達目標】糸満の伝統産業である漁業と社会の関わりについて、祭祀、結婚形態まで含め深く理解することを目標とする。 【準備学習】前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■13回目 【テーマ】糸満漁民 糸満の近現代漁業産業 【到達目標】漁業を伝統的生業とする糸満の人々が、帝国主義的な海外膨張の国策とどのような関わりを持ち、また戦後のアメリカ軍政時代を経て今日どのような状態にあるのかについて深く理解することを目標とする。 【準備学習】前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p> <p>■14回目 【テーマ】絹 その歴史と意味 【到達目標】織物産業の重要な天然繊維である絹と蚕について、その特徴と歴史的展開を深く理解することを目標とする。 【準備学習】提示された参考文献に目を通しておくこと。</p> <p>■15回目 【テーマ】絹 日本近代繊維産業史 【到達目標】日本がいかに蚕を導入し、近代期の一大産業まで育てることが出来たのかについて深く理解することを目標とする。 【準備学習】前回の講義内容を復習し、また提示された参考文献にも目を通しておくこと。</p>
教科書	特に指定しませんが、講義中に紹介する参考文献を積極的に参照して下さい。
参考文献	<p>石井龍太 2011年『琉球近世植木鉢の系譜 —アジアの中の琉球園芸文化—』『南島考古』沖縄考古学会、第30号</p> <p>秋道智彌 1994年『クジラと人の民族誌』東京大学出版</p> <p>塚本勝巳 2012年『世界で一番詳しいウナギの話』飛鳥新社</p> <p>鈴木芳行 2011年『蚕に見る明治維新 渋沢栄一と養蚕教師』吉川弘文館</p> <p>今村啓爾 1997年『戦国金山伝説を掘る』平凡社</p> <p>大阪市立東洋陶磁美術館編 1999年『大阪市立東洋陶磁美術館 館蔵品選集 東洋陶磁の展開』</p> <p>矢部良明監修 2005年『【カラー版】日本やきもの史』第4刷 凸版印刷</p> <p>平野繁臣 1999年『国際博覧会歴史事典』内山工房</p>
授業の方法	<p>授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反転授業 ・実習、フィールドワーク <p>なお、本授業では授業の双方向性と皆さんの学びを可視化するために、Teams等でのチャット機能やFormsを活用した授業を実施します。</p>
成績評価方法	<p>【評価方法】平常点(授業への参画、受講態度)と試験・レポートで評価します。</p> <p>【割合】平常点50%、試験・レポート50%</p> <p>【基準】授業内容に関する深い理解を獲得することが出来たか。</p> <p>【フィードバック方法】なお、課題等については、 ・実技・実習後、全体に向けてコメントします。</p>
オフィスアワー	開講日の昼休み
居室	17-512
ホームページ	城西大学経営学部 石井龍太研究室
その他特記事項	【ナンバリング : GEO201J】
添付ファイル	